

張りぐるみ椅子（ソファ）への県産材利用

林業研究部

1. 研究の背景

主要な木製家具の一つである張りぐるみ椅子（ソファ）は、内部の木枠フレームに輸入材（アピトン、ポプラLVL等）が使用されているが、今回、県産材（スギ、ヒノキ、ユリノキ）に転換することを目的に、使用条件の把握試験を行った。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

木枠フレームを構成する座、背、肘の部品（13部品）に県産材を使用
現行の輸入材と同等以上の強度を得ることが確認できた

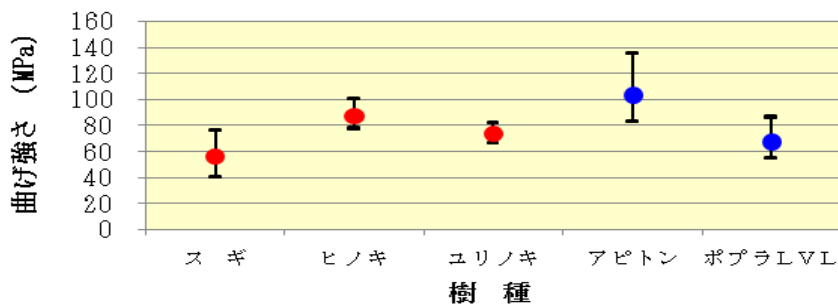


図1. 県産材と輸入材の曲げ強さ比較



写真1. ソファ

表1. 木枠フレームの部品寸法および仕様

部品名	輸入材			県産材			
		幅方向	厚さ方向	スギ	ヒノキ	ユリノキ	
座(奥)	アピトン	50	20	→	70(2枚重ね)	60	70
笠木	アピトン	50	20	→	60(2枚重ね)	60	60
背	ポプラLVL	30	20	→	60	30	40
座(左・右)	アピトン	20	30	→	50	40	40
肘(内・外)	ポプラLVL	20	30	→	30(中央部に当木)	30(中央部に当木)	30(中央部に当木)
座(前)	アピトン	20	40	→	60	50	50



- ・使用する部材の幅を広くする
- ・部材を2枚重ねにする
- ・部材の中央部に当木する

3. 期待される効果

- ・原材料の安定供給
- ・他産地との差別化

4. 担当機関連絡先

林業研究部 木材チーム
TEL : 0973-23-2146
住所 : 日田市大字有田字佐寺原35